

木村 晃久
KIMURA Akihisa

■ 専門分野

会計学分野・財務会計

■ 指導可能な研究テーマ

財務会計に関する実証研究（ただし、下記「その他」を参照。）

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

【2024 年度】

- ・オペレーティング・リース債務の株式リスク関連性

【2021 年度】

- ・株式を対価とする買収企業の利益調整行動に関する実証研究
- ・無形資産が企業の資本構成に与える影響—日本の製薬企業を対象として—

【2020 年度】

- ・研究開発投資の不確実性に関する実証研究

【2019 年度】

- ・利益調整のベンチマークに関する実証分析—配当金額に着目して—
- ・特別損失の情報価値—マルチファクターモデルによる実証検証—
- ・退職給付債務と株価の関係—割引率の大きさに着目して—

【2017 年度】

- ・日本版 SOX 法が日本企業の利益調整行動に与える影響

【2016 年度】

- ・特別損益と経常損益の価値関連性—特別損益の持続性に着目して—

【2015 年度】

- ・のれん償却費の価値関連性に関する実証研究
- ・包括利益と純利益の価値関連性についての実証研究
- ・虚偽記載に対する投資家の反応—課徴金納付命令勧告の対象となった再表示を題材として—

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

- ・大日方隆『アドバンスド財務会計（第2版）』中央経済社、2013年.
- ・笠原晃恭・村宮克彦『実証会計・ファイナンス: R による財務・株式データの分析』新世社、2022年.
- ・斎藤静樹『会計基準の研究（新訂版）』中央経済社、2019年.

以上は必読です。（このほかにも読んでほしい文献は山のようにあります。）

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

財務会計特論、国際会計特論、計量分析特論、経営財務特論

その他、会計学関連科目はできるだけ履修することを推奨します。

■ 博士課程後期での研究指導実績

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

- ・ 会計不正が投資家の意思決定にあたえる影響—不正着手から訂正完了後の期間を対象にして—（2020 年 3 月）
- ・ Whether Longer Annual Reports Are Better: Evidence From Annual Reports Issued By Foreign Firms Listed On The US Stock Exchange（2019 年 9 月）

■ その他

ファイナンスや経営に関する実証研究のなかには財務会計データを用いるものがありますが、それらは私の研究指導対象ではありません。「財務会計」に関する実証研究をおこないたい学生を歓迎します。

なお、私がこれまで指導してきた大学院生は、内部進学者を除き、まずは学部研究生として入学し、その後大学院へ進学したパターンが圧倒的に多いです。学部研究生として入学することを希望する場合は、「財務会計」に関する研究計画書を添えて、私にコンタクトを取ってください。